

【福島ブックレット委員会ポジションペーパー】

福島ブックレット委員会は原発がもたらすリスクを災害リスクとして捉え、リスクから目を背ける政策（安全神話作りなど）には明確に反対します。仙台防災枠組でも提唱されているように、私達は災害リスクの軽減に積極的に取組み、より安全・安心な社会を作る次世代への責任を負っています。そういう観点から、過去から学び、より良い未来の為、日本で起きた原発事故からの教訓を世界に積極的に発信したいと考えます。それにより、原発を検討している国や地域の住民・政府に対して原発の持つリスクの意識化を促進し、すでに原発がある国や地域では、住民のリスクが低減することを願っています。

私達は日本が原発に頼らない社会になるべく早く変わる事を強く願っています。しかしながら原発を作る作らないはそれぞれの国の人々が決める事です。安全神話に翻弄された日本の過ちから学んで頂き、リスクや持続可能性を十分理解し、幅広い合意を得た上でエネルギー政策を作って欲しいと願います。

以下、福島ブックレット委員会が懸念する原発リスクについて述べさせていただきます。

1. 廃棄物

日本における使用済み核燃料や放射性廃棄物の最終的処分方法は未定です。仮に現在検討されている処分方法のどれかが選ばれたにしても数万年単位の管理は、現在のどのような政府も保証することは不可能だといえます。

2. 桁違いなリスク

自然災害であれ人為的なものであれ、原因を問わず事故の確率は0にはなりません。これまでの原発災害を見るまでもなく、その環境、健康、社会に及ぼす被害・影響は一地域に留まらず、世界全体に及ぶ広範で長期に渡ります。

3. 核兵器と表裏一体

原子力の平和利用と言っても、原発が生み出す使用済み核燃料を核兵器に転用するのは技術的には可能だと言われてしています。また国際原子力機関（IAEA）などによる国際的ルールがあっても、それを無視、軽視する政府（あるいは政府ですらないかも知れない）にとってはなんの意味も持ちません。

4. 人権

原発を運転維持するだけで多くの被ばく者を生み出しています。原発を稼働することは、健康リスクと引き換えに被ばく労働に従事する労働者の存在なしには成り立ちません。ま

た、事故なく運転されていても、漏れ出る放射性物質などが環境に影響しているとする研究もあり、周辺住民の長期的健康被害も指摘されています。またひとたび事故が起これば、通常の放射線レベルが引き上げられ、避難させられることもなく否応なしに被ばくを強制されるのです。

5. 持続可能な世界

原発事故が一度起きれば数十年から数万年の影響が続き、持続可能な世界が根底から崩れてしまいます。原発事故の確率が0でない以上、巨大なリスクを抱えていては持続的な世界は作ることはできません。リスクを無くす、あるいは限りなく下げるための工夫が必要です。再生可能エネルギーの開発と同時に、浪費的ではない省資源的なライフスタイルを広げること。また、大規模なシステムから地域分散型にすることによりリスクも分散できます。

ブックレットはクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示 - 非営利 - 改変禁止」のコードのもとに Web サイトで PDF として公開されます。また、ブックレット委員会は原発が立地する地域の住民の災害リスクを低減したり原発建設計画がある地域ではより慎重な議論を喚起するため、別に定めたガイドラインのもと、ブックレットの翻訳や印刷にかかる費用の一部を支援します。また公開にあたってはオリジナル版同様クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示 - 非営利 - 改変禁止」のコードの使用を推奨します。

2015 年 11 月 19 日
福島ブックレット委員会